

2019年度

統合実習

[表紙1]

【提出記録用紙】

- 1 実習評価表
- 2 事前レポート
- 3 日々の体験記録
- 4 事後レポート

学生証番号： K F _____

学生氏名 ： _____

実習期間 ： 月 日 ~ 月 日

実習施設名： _____

担当教員名： _____

指導者名 ： _____

看護学科3年 専門教育科目

2019年度

統合実習

[表紙2]

【提出記録用紙】

- 5 実習計画表
- 6 問題リスト
- 7 看護過程展開用紙
- 8 (アセスメント用紙1)
- 9 (アセスメント用紙2)

学生証番号： K F _____

学生氏名： _____

実習期間： _____ 月 _____ 日 ~ _____ 月 _____ 日

実習施設名： _____

担当教員名： _____

指導者名： _____

看護学科3年 専門教育科目

授業科目名：統合実習

単位／時間：2単位／90時間

対象／開講：17KF／3年生 後期

担当教員：千葉 美果、新村 直子、山口 由子、阿部 ケエ子、尾近 千鶴、蔵本 文乃、
端山 淳子、大貫 美奈子、木村 節子、中川 三穂、牧原 和子、室伏 圭子、
高柳 朋恵

ディプロマポリシーとの関連： ○該当する ◎特に該当する

- ◎ 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- ◎ 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- ◎ 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- ◎ 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- ◎ 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- ◎ 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- ◎ 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- ◎ 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

【目的】：

看護チームの活動に参加し、看護実践能力を高めるとともに、これまでの学修内容を統合して、看護の本質を考えることができる。

【中核目標】：

- I 看護チームの看護活動に参加し、チームで看護を行う必要性と意義について学ぶことができる。
- II 受け持ち患者の看護計画を立案し、看護チームと共に実施・評価できる。
- III 自己の課題を明らかにし、看護実践能力を高めることができる。
- IV 看護の本質の探究に向けて、自己の看護観が明確にできる。

中核目標 I 看護チームの看護活動に参加し、チームで看護を行う必要性と意義について学ぶことができる。

行 動 目 標

1. 24時間の患者の生活、病棟の看護活動について述べることができる。
2. 参加する看護チームの看護活動を把握し、記述することができる。
3. チーム内の患者に関心を寄せ、必要な情報を知った上で看護活動に参加できる。
4. 看護師の行っている看護活動の判断について説明できる。
5. 受け持ち患者の看護を行う際、チームの看護活動も視野に入れて行動することができる。
6. 日々の行動に際して、優先順位・時間配分などを考えた自己の活動の調整ができる。
7. チームで看護することの意義について述べるすることができる。

中核目標 II 受け持ち患者の看護計画を立案し、看護チームと共に実施・評価できる。

行 動 目 標

1. 受け持ち患者の必要な情報を、優先順位を考え効率的に収集できる。
2. 情報の意味や関連を考えながら、看護問題を抽出し、看護計画が立案できる。
3. 看護計画に基づいて、患者の反応を把握しながら、安全安楽に配慮して実施できる。
4. 看護問題や看護計画について、看護チームと情報交換できる。
5. 看護チームと情報交換しながら、受け持ち患者の看護計画の評価・修正ができる。

中核目標 III 自己の課題を明らかにし、看護実践能力を高めることができる。

行 動 目 標

1. 自己の強みと課題を自覚し、成長に向けて行動することができる。
2. 看護技術の修得状況を確認し、向上を図ることができる。
3. 対象の尊厳を尊重した関わりができ、適切な関係を築くことができる。
4. 看護チーム・多職種との関係を築くことができる。
5. 看護チームの一員として、自己の考えを積極的に伝え連携を図ることができる。
6. 主体的に自己の中に問いをたて、探求していくことができる。
7. 自己の成長を確認し、今後の方向性を述べるすることができる。

中核目標 IV 看護の本質の探究に向けて、自己の看護観が明確にできる。

行 動 目 標

1. 看護師が自己の看護観をどのように実践に反映させているのか把握し、述べるすることができる。
2. 日々の看護活動の中にある看護について考えることができる。
3. 自己の看護観を述べることができる。
4. 自己の看護観を今後の看護活動にどのように結び付けていくか述べることができる。

統合実習 実習評価表		学生証番号：			氏 名					
		実 習 期 間：			実 習 場 所：					
目 的	看護チームの活動に参加し、看護実践能力を高めるとともに、これまでの学修内容を統合して看護の本質を考えることができる。									
項 目	自己評価	指導者評価	教員評価	項 目	自己評価	指導者評価	教員評価			
中核目標Ⅰ	看護チームの看護活動に参加し、チームで看護を行う必要性と意義について学ぶことができる。	良 い	良 い	良 い	中核目標Ⅳ	看護の本質の探究に向けて、自己の看護観が明確にできる。	良 い	良 い	良 い	
1.	24時間の患者の生活、病棟の看護活動について述べるができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.	看護師が自己の看護観をどのように実践に反映させているのか把握し、述べるができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2.	参加する看護チームの看護活動を把握し、記述することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2.	日々の看護活動の中にある看護について考えることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3.	チーム内の患者に関心を寄せ、必要な情報を知った上で看護活動に参加できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3.	自己の看護観を述べるができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4.	看護師の行っている看護活動の判断について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4.	自己の看護観を今後の看護活動にどのように結び付けていくか述べるができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5.	受け持ち患者の看護を行う際、チームの看護活動も視野に入れて行動することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	目 標 達 成 度			/69	/69	/69
6.	日々の行動に際して、優先順位・時間配分などを考えた自己の活動の調整ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				%	%	%
7.	チームで看護することの意義について述べるができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	出 欠 席	出 席	欠 席	遅 刻	早 退	
中核目標Ⅱ	受け持ち患者の看護計画を立案し、看護チームと共に実施・評価できる。	良 い	良 い	良 い	自己 評 価	サイン _____				
1.	受け持ち患者の必要な情報を、優先順位を考え効率的に収集できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
2.	情報の意味や関連を考えながら、看護問題を抽出し、看護計画が立案できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
3.	看護計画に基づいて、患者の反応を把握しながら、安全安楽に配慮して実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
4.	看護問題や看護計画について、看護チームと情報交換できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
5.	看護チームと情報交換しながら、受け持ち患者の看護計画の評価・修正ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	臨 床 指 導 者 評 価	サイン _____				
中核目標Ⅲ	自己の課題を明らかにし、看護実践能力を高めることができる。	良 い	良 い	良 い						
1.	自己の強みと課題を自覚し、成長に向けて行動することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
2.	看護技術の修得状況を確認し、向上を図ることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
3.	対象の尊厳を尊重した関わりができ、適切な関係を築くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
4.	看護チーム・多職種との関係を築くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	教 員 評 価	サイン _____				
5.	看護チームの一員として、自己の考えを積極的に伝え連携を図ることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
6.	主体的に自己の中に問いをたて、探求していくことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
7.	自己の成長を確認し、今後の方向性を述べることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
総合評価						S ・ A ・ B ・ C ・ D ・ E				

I 実習方法

1) 実習対象者

全学生が履修する。

但し、以下の者を除外する。

- ① 原則として一つでも実習に不合格のある者
- ② 期間内に特別実習・追実習を受けて、2月の卒業判定会議までに合格する見込みのない者
- ③ 教授会の議を経て、学長が決定する

2) 実習前（事前準備）

1. フラットファイルを作成する。ファイルのテーマは「私の学びと看護観の軌跡」とし、1年次からの各看護学実習での最終レポート等のコピーを保管しておく。これらのレポートを基に事前レポートを作成する。
2. 事前レポート：テーマ「統合実習に臨むにあたって」とし、自己の看護実践能力に対する振り返りと、これまで経験した実習を通して考えた自己の看護観を含めて述べなさい。
期限：2019年11月26日（火）10時。 場所：K館3階 提出Box
3. 担当教員の指導のもとで共有学習を行う。
4. 実習前に看護技術到達度記録を確認し、実習病棟で実施可能な技術について自己学習する。

3) 実習中

1. 一日目は、夜間を含めた24時間の患者の生活・病棟の看護活動について看護師より説明を受ける。
2. 原則として、所属する看護チーム内の全患者の概要を把握して、看護師とともに行動し看護活動に見学・参加する。ただし、当日の病棟リーダー看護師の看護活動は除く。
3. 看護活動の見学・参加に際しては、担当看護師より適宜必要な説明を受け、見学終了時は看護師がどのような判断で看護活動を行っていたのか等について聞き、看護について話し合う時間を持つ。
4. 情報収集に関しては、看護師からの説明や申し送りを聞くとともに、必要な情報は何かを考えたしながら、主体的に行動する。
5. 1週目後半からは患者を受け持ち、その人の看護を優先的に実施しながら看護チームの活動に参加する。（受け持ち患者は原則1名とする）
6. 受け持ち患者の看護過程の展開は、問題リスト、看護過程展開用紙を使用する。アセスメント用紙1・2の使用は任意とする。
7. 受け持ち患者の看護にあたっては、看護チームと情報交換し、アドバイスを受けながら計画立案し、看護師と共に実施する。
8. 日々の体験記録は、目標に照らし1日の気付きと学びを記載する。また、第1週目の水曜日または木曜日の日々の体験記録は、学びの評価として「自己の課題」への取り組み状況を含め記載する。
9. 最終カンファレンス：テーマ「看護の本質の探究にむけて－看護チームへの参加を通して考えた看護観－」カンファレンスの方法は、各グループで決定する。

10. 実習時間：8:30～16:30
11. 事後レポート：テーマを「統合看護実習における学び」とし、自己の看護観とそれを今後の看護活動にどのように結び付けていくのかを含めて記述し、サブテーマをつけなさい。
12. 実習後は、看護技術到達度記録をチェックし、実習担当教員に確認のサインをしてもらう。

II 実習日程

次頁参照

III 実習記録

1. 実習計画表（様式 1-1、2）

担当する看護チームの主な活動内容を「チーム全体の活動」欄に、看護師と同行して見学・参加する看護活動を「自己の行動計画」に記載する。患者を受け持った後も「チーム全体の活動」は同様とし、「自己の行動計画」に受け持ち患者への看護活動を含めた自己の行動の計画を記載する。患者の氏名は記号化し、個人情報の保護に努める。

2. チーム患者把握表（様式 2）

各自が、必要と考える情報を記載する。情報は適宜追加・修正する。

チーム患者把握表は病棟外に持ち出してはならない。実習終了時、実習病棟にて適切に処理する。

3. 日々の体験記録

4. 問題リスト

5. 看護過程展開用紙

6. アセスメント用紙 1・2（任意）

7. 実習評価表

IV 記録物の提出

1. 実習最終日の実習終了時

V 実習評価

1. 東海大学医療技術短期大学実習に関する細則の規定により、実習評価は実習日数の 3 分の 2 以上を出席したものを対象とする。
2. 評価は、実習の全プロセスを対象とし、評価表に基づいて行う。
3. 最終評価面接は、原則として学生・臨床指導者・担当教員の三者で行う。その際、学生は評価表に沿って自己評価を記載して面接に臨む。
4. 最終評価は、学生の自己評価、臨床指導者評価を踏まえ、担当教員が行う。評価は S・A・B・C・D・E で判定する。
5. 成績評価の方法
評価表の各項目の評価基準は、以下の 3 段階とする。
 - ・良 い：3 点（80%以上達成している場合）
 - ・ふつう：2 点（60～79%達成している場合）
 - ・要努力：1 点（達成度が 60%未満）

※実習日程					
日程	曜日	午前	午後		
事前		実習オリエンテーション（4月・9月）			
		事前学習・看護技術到達度記録の確認・担当教員との打ち合わせ・レポート提出			
1日目	月	病棟 オリエンテーション	参加チームの決定 チーム内の患者への 挨拶 情報収集	15:00～16:30 カンファレンス 今後に向けての 疑問質問、相談 翌日の病棟および自己の 計画確認	
2日目	火	看護活動の見学・参加 情報収集（チーム内の患者） ・ チームの申し送り終了まで看護師とともに行動（カンファレンス任意） ・ 翌日の病棟および自己の計画確認			
3日目	水	看護活動の見学・参加 情報収集（チーム内の患者）	15:00～16:30 カンファレンス 翌日の病棟および 自己の計画確認		
4日目	木	看護活動の見学・参加 情報収集（チーム内の患者）			受け持ち患者決定 情報収集
5日目	金	看護活動の見学・参加 受け持ち患者のアセスメント・問題リスト作成			
6日目	月	受け持ち患者の看護計画の確認			
7日目	火	ケアの実施			
8日目	水	チームの看護活動の見学・参加			
9日目	木	最終カンファレンス			
10日目	金	面接・記録の整理	記録の整理		

* 翌日の計画確認・作成は時間内に行う。

* 看護活動への見学・参加にあたっては、必ず事前学習をして臨む。特に検査・処置などに際しては、目的や注意事項を述べられるよう学習する。

* 受け持ち患者の報告は、指定時間までに担当看護師に行う。

* 実習日程に関しては、病棟等の状況により調整は可能とする。

実習計画表

月 日 () (日目 / 週目) 氏名 :

週間 実習目標		
本日の 目標		
	チーム全体の活動	自己の行動計画
8 : 30		
16 : 30		
備考		

実習計画表

月 日 () (日目 / 週目) 氏名 :

本日の 目標		
	チーム全体の活動	自己の行動計画
8 : 30		
16 : 30		
備考		

情報とその意味 (解釈・分析)

生活行動 様式	
健康認識 健康管理	
呼吸・循環 体温調節	
栄養・代謝	
排泄	
活動・休息	
皮膚粘膜の 保全	
性・生殖	
感覚知覚 伝達	
自己像・ 自己実現	
役割・関係	
その他	

アセスメント用紙2 (対象の全体像)

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名



*関連図・図・絵などを用いて記載する

看護過程展開用紙

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名

日	情報 (初期データ・追加データ) 実施の事実・結果・対象の反応	日	アセスメント (実施の評価)	日	問題点	日	患者目標	日	具体策
							目標の達成状況		

プロセスレコード

日時： 月 日

学生氏名： _____

患者概要：

プロセスレコードをとった理由：

場面状況：

私が知覚したこと	私が考えたり 感じたりしたこと	私が言ったり 行ったりしたこと	分析・考察

分析・考察を通してどのような気づきが得られたか